



日本国特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
る事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
in this Office.

出願年月日
Date of Application:

2000年 7月24日

出願番号
Application Number:

特願2000-222457

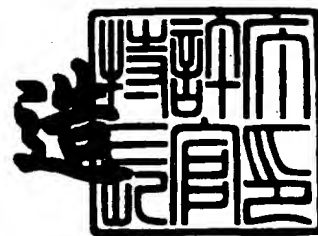
出願人
Applicant(s):

株式会社エーケーアイインターナショナル

2001年 2月 9日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3006552

【書類名】 特許願

【整理番号】 10047

【提出日】 平成12年 7月24日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 A63C 5/00

【発明者】

【住所又は居所】 アメリカ合衆国カリフォルニア州92121・サンディ
エゴ・スイート エム・エヌ・ソレントバレーブールバ
ード 4186・グッドウエブエンタープライジズ イ
ンコーポレイテッド ユーエスエイオフィス内

【氏名】 エリック・エリントン

【特許出願人】

【識別番号】 399039878

【住所又は居所】 埼玉県与野市新中里1丁目11番1号

【氏名又は名称】 株式会社エーケーアイインターナショナル

【代理人】

【識別番号】 100089266

【弁理士】

【氏名又は名称】 大島 陽一

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 047902

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9907411

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 スノーボード

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 雪上面を滑走する縦長の滑走板と、この滑走板上へ所定間隔でほぼ並行状に設けてプレーヤーが乗る縦長の操作板と、前記滑走板と前記操作板とを長手方向のほぼ中央で相互に連結する連結部とで構成したことを特徴とするスノーボード。

【請求項 2】 前記操作板は、前記滑走板より幅及び長さを大きく形成する請求項 1 に記載したスノーボード。

【請求項 3】 前記操作板には、プレーヤーの履き物のつま先を着脱可能に一次係止する係止部材を、長手方向の端部側に設けた請求項 1 又は 2 に記載したスノーボード。

【請求項 4】 前記操作板には、履き物を取り付けるビンディングを着脱可能に装着した請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載したスノーボード。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、雪上を滑走するスノーボードに係わり、特に雪上でスケートボードのようなアクションを容易に楽しむことが可能なスノーボードに関する。

【0002】

【従来の技術】

従来のスノーボードは、雪上に設置する滑走板の上面にビンディングが取り付けられており、プレーヤーは履いたスノーブーツをビンディングにセットして滑走板に乗り、重心の移動で滑走板のエッジを制御して斜面の雪上をターンしながら滑走するものである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、従来のスノーボードではスノーブーツを履いた足が滑走板上に固定されているので、重心の移動を行う際には体全体で操作する必要があり、その体重

の移動操作が容易でなく、そのために体に過大な負担が掛かることになる。

【0004】

また、同じ滑走具であるスケートボードの場合のように、滑走板の上面を足でキックしてプレーヤー及び滑走板を空中に浮かせながら、オーリーやショービット或いはフリップなどの、派手なアクションを含むプレーを楽しむことができないこと、などの課題があった。

【0005】

そこで本発明では、これら従来技術の課題を解決するものであって、重心の移動操作が容易であると共に、雪上でスケートボードと同様の派手なアクションを含むプレーを楽しむことができる新たな構想によるスノーボードを提供する。

【0006】

【課題を解決するための手段】

本発明によるスノーボードは、雪上面を滑走する縦長の滑走板と、この滑走板上へ所定間隔でほぼ並行状に設けてプレーヤーが乗る縦長の操作板と、前記滑走板と前記操作板とを長手方向のほぼ中央で相互に連結する連結部とで構成したことを特徴とする。

【0007】

このスノーボードによると、操作板上でプレーヤーは乗る位置を移動することによって、重心移動を自由に行うことができるので、足の位置を固定して体全体を使って重心移動を行う従来のスノーボードに比べて、体に無理な負担が掛かることなく容易に操作することができる。

【0008】

また、操作板上で自由に重心移動を行いながら、操作板をキックしたり操作板上からジャンプすることによって、スケートボードにおけるオーリーやショービット或いはフリップなどのアクションを行うことが可能であり、雪上で派手なアクションを含むプレーを楽しむことができる。

【0009】

前記スノーボードにおける前記操作板は、前記滑走板より幅及び長さを大きく形成する形態を採ることができる。

【0010】

このスノーボードによると、操作板上における重心の移動操作が滑走板に対して顕著に作用させることができるので、滑走板を一段と容易且つ自由に制御することが可能である。

【0011】

前記スノーボードにおける前記操作板には、プレーヤーの履き物のつま先を着脱可能に一次係止する係止部材を、長手方向の端部側に設けた形態を採ることができる。

【0012】

このスノーボードによると、特にスケートボードのようなアクションを行う際に、係止部材にスノーブーツなどの履き物のつま先を一次係止させた状態で、スノーボードを容易に回転させることが可能である。

【0013】

前記スノーボードにおける前記操作板には、履き物を取り付けるビンディングを着脱可能に装着した形態を採ることができる。

【0014】

このスノーボードによると、例えば初心者に対して第一段階として両足をビンディングで固定してボードに慣れさせた後に、第二段階として一方の片足をビンディングで固定して他方の片足をフリーにし、第三段階として両足をフリーにする本来の状態に移行させることができ、最初に第二段階からスタートすることも可能である。

【0015】

また、ビンディングを取り付ける位置は必ずしも固定させる必要はなく、つま先側或いはかかと側のいずれかの一方を枢着して他方を回動可能にしたり、一定の領域内で前後及び又は左右にスライドできるような形態を採っても良い。

【0016】

【発明の実施の形態】

以下に、本発明のスノーボードについて、その好適な実施形態を示す添付した図面に基づいて詳細に説明するが、図1はスノーボードの斜視図を、図2はスノ

ーボードの分解斜視図を、図3はスノーボードの長手方向に沿った縦断面図を、図4はスノーボードの短手方向に沿った縦断面図をそれぞれ示す。

【0017】

スノーボード1は、下部側の滑走板2と上部側の操作板3とを連結部材によって一体にした上下二段構造であり、連結部材としては公知の各種連結手段を採り得るが、図示の実施形態では滑走板2と操作板3との間に間隔保持手段を兼用する4本の連結筒4を介在させ、操作板3に設けた通孔5及び連結筒4に挿通させた連結ねじ6を、滑走板2に埋設した連結ナット7に螺着している。

【0018】

滑走板2は、従来のスノーボードの場合と同様に、長手方向の前後にあるノーズ8とテール9がそれぞれ上方へ湾曲状に迫り上がり、ノーズ8とテール9間に形成された滑走面10はなだらかな弓形状に上方へ湾曲すると共に、滑走面10の短手方向の両側にはサイドエッジ11、11を設け、板自体は樹脂材で成形加工されている。

【0019】

操作板3は、サイドエッジ11、11がない点を除いて滑走板2とほぼ同様の構造であって、長手方向の前後にノーズ12とテール13を設け、その間にスノーブーツなどの履き物を履いたプレーヤーの両足14を通常時に載せるデッキ15を設けると共に、ノーズ12には係止部材16を必要に応じて設ける。

【0020】

係止部材16は、ジャンプやターンなどをする際に、履き物のつま先を差し込んでプレーヤーの両足14の一方を着脱可能に一次係止するものであり、プレーヤーの利き足等に適合できるようにノーズ12の右側又は左側の双方或いはいずれかの一方に設け、不要な際には取り外しができるようにすることが望ましい。

【0021】

滑走板2と操作板3のサイズは、所望に応じて任意に設定可能であるが、機能性及び操作性を高めるためには、基本的には操作板3の長さ及び幅を滑走板2より大きく形成すると共に、従来のスノーボードに比べて長さ及び幅を小さくして小型化することが望ましい。

【0022】

例えば、滑走板2は長さが80cmで幅が10cm程度とすると、操作板3は長さが2～3cmで幅が10cm程度大きく形成すると共に、滑走板2と操作板3の間隔は15cm程度とし、従来の一般的なスノーボードの長さ140～150cmで幅が25cm程度に比較して小型になっている。

【0023】

連結筒4は、連結ねじ6及び連結ナット7と協働して滑走板2と操作板3との連結部を構成するが、この連結部は通常時に両足14が乗る内側に設け、硬質の合成樹脂材や錆の発生しない金属材によって形成される。

【0024】

操作板3のデッキ15上には、両足14の移動を自由に行うことができるように、原則的にはビンディングを設けない形態を採るが、初心者などの場合にはスノーボード1に慣れるために、着脱可能にビンディングを取り付ける形態を採るようにしても良い。

【0025】

ビンディングを取り付ける場合に、両足14に対してそれぞれビンディングを設ける形態もあるが、ノーズ12側の足のみでテール13側の足は自由に移動できるようにする形態を採るようにしても良く、又ビンディングを所定の範囲内で移動可能にする形態を採ることも可能である。

【0026】

スノーボード1は、斜面のある雪上に滑走板2の滑走面10を設置させ、プレーヤーはスノーブーツなどの適宜な履き物を履いた状態で、ノーズ12を前方にした操作板3のデッキ15上に斜に構えて両足14、14を載せ、滑走条件に適合させて両足14の位置移動で重心移動を行いながら滑走する。

【0027】

滑走時における重心移動は、図3及び図4で示すように（理解しやすいように多少誇張して図示している。）、操作板3のノーズ12側又はテール13側のいずれか一方に重心W1を移動させると他方が持ち上がり、操作板3のデッキ15の右側又は左側のいずれか一方に重心W2を移動させると他方が持ち上がる。

【0028】

従って、例えば斜面で方向転換する際などにはデッキ15の右側又は左側のいずれか一方に重心W2を移動させ、サイドエッジ11を効かせて容易に方向転換を行うことができると共に、その際に従来のスノーボードのように体全体を傾けて重心の移動を行う必要がないので、体に無理な負担が掛かることがない。

【0029】

また、スケートボードにおけるオーリーやショービット或いはフリップなどのアクションも、滑走中にノーズ12側又はテール13側のいずれか一方をキックして重心W1を移動させながら、プレーヤーがジャンプしてスノーボード1を容易に吊り上げて行うことが可能であり、雪上で派手なアクションを含むプレーを楽しむことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の実施形態によるスノーボードの斜視図を示す。

【図2】

本発明の実施形態によるスノーボードの分解斜視図を示す。

【図3】

本発明の実施形態によるスノーボードの長手方向に沿った縦断面図を示す。

【図4】

本発明の実施形態によるスノーボードの短手方向に沿った縦断面図を示す。

【符号の説明】

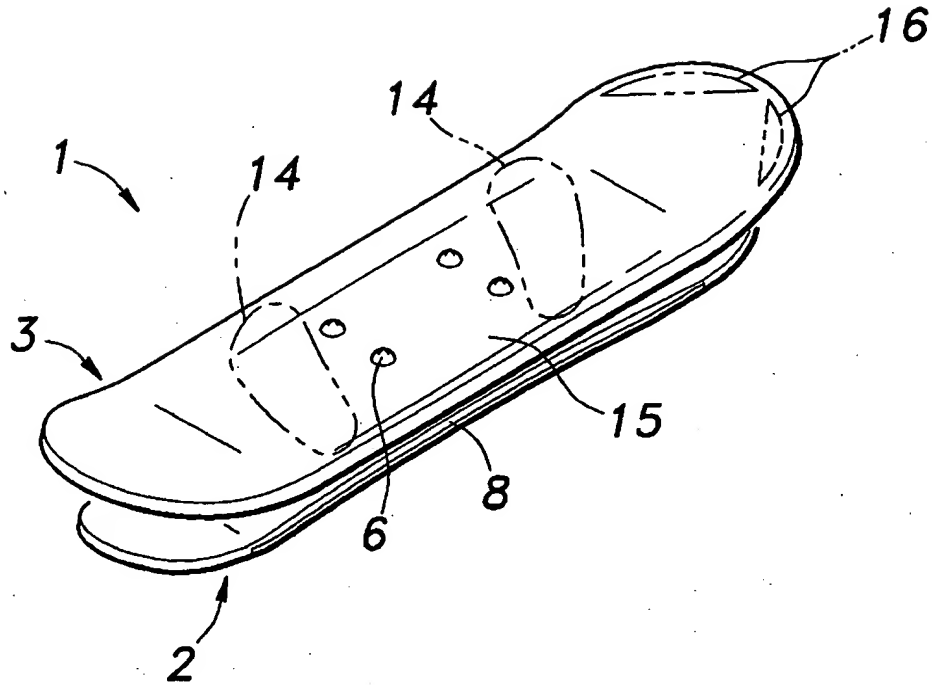
- 1 スノーボード
- 2 滑走板
- 3 操作板
- 4 連結筒
- 5 通孔
- 6 連結ねじ
- 7 連結ナット
- 8 ノーズ（滑走板2の）

- 9 テール (滑走板 2 の)
- 10 滑走面
- 11 サイドエッジ
- 12 ノーズ (操作板 3 の)
- 13 テール (操作板 3 の)
- 14 両足
- 15 デッキ

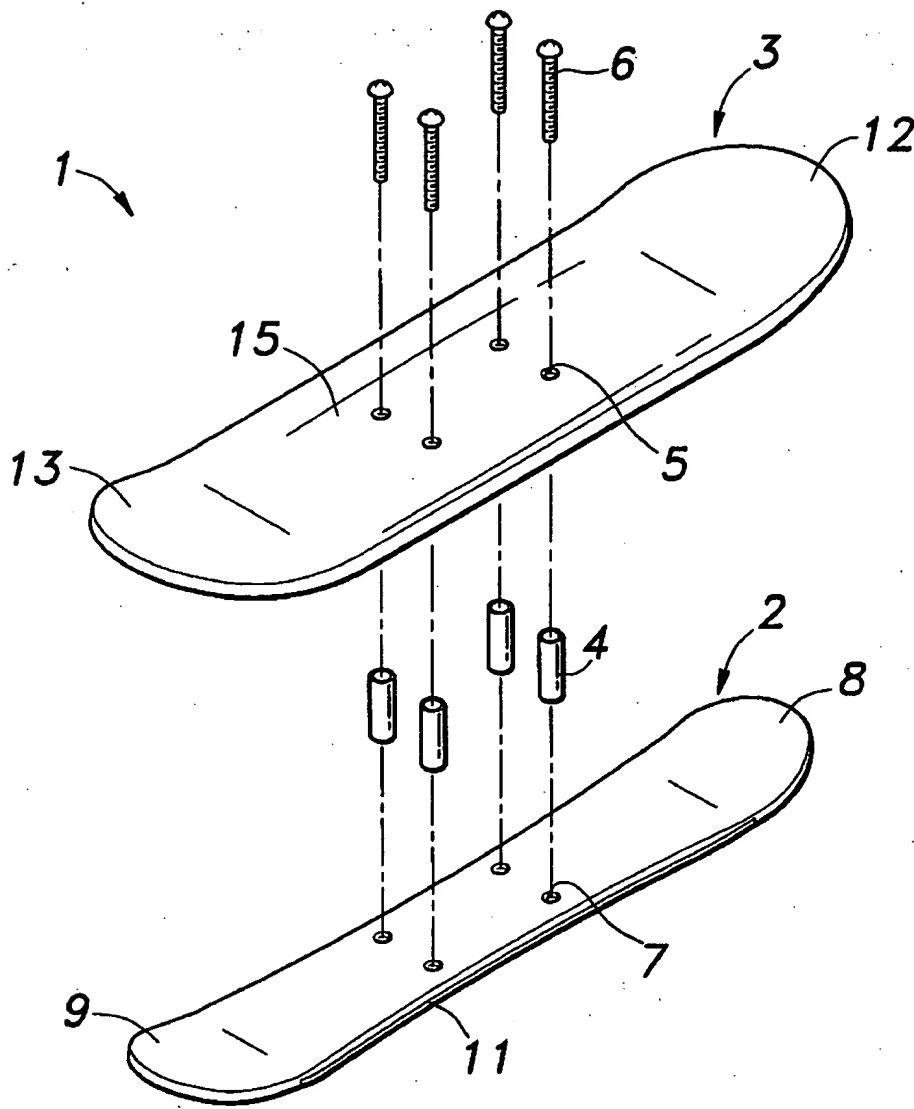
【書類名】

図面

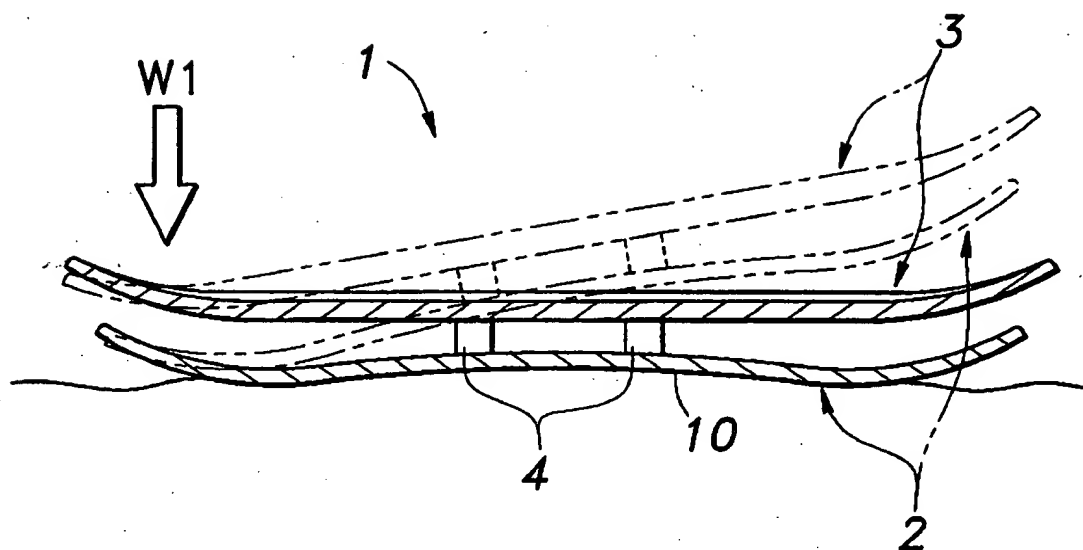
【図1】



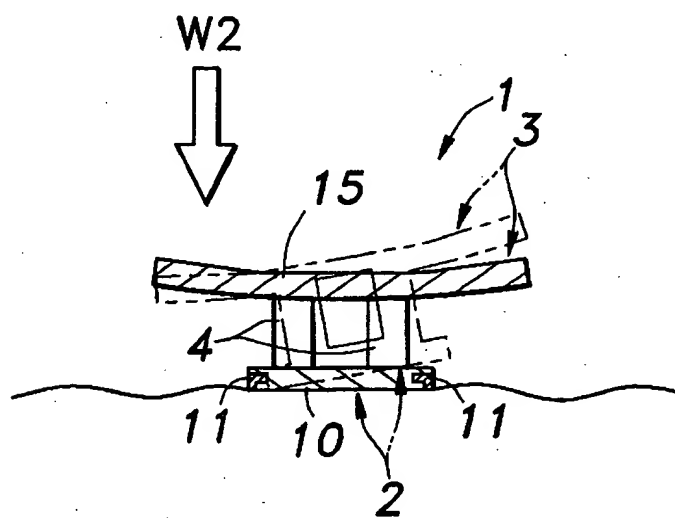
【図2】



【図3】



【図4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 重心の移動操作が容易であると共に、雪上でスケートボードと同様の派手なアクションを含むプレーを楽しむスノーボードを提供する。

【解決手段】 雪上面を滑走する縦長の滑走板2と、滑走板2上へ所定間隔でほぼ並行状に設けてプレーヤーが乗る縦長の操作板3と、滑走板2と操作板3とを長手方向のほぼ中央で相互に連結する連結部4とで構成したスノーボード1である。

【選択図】 図2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[399039878]

1. 変更年月日 1999年 6月25日

[変更理由] 新規登録

住 所 埼玉県与野市新中里1丁目11番1号

氏 名 株式会社エーケーアイインターナショナル